



挿画 LXXV 日本の娘
一葉の写真をもとに、E. ロンジャ筆

国内における疾病の筆頭は貧血症で、とくに男性に多い。言ってみれば、頼りにされるのは貧血に悩まない男なのであって、若年層を除けば八割以上が貧血気味とされる。主な原因とされるのは米飯に偏った食事で、タンパク質と脂が少なすぎると言われる。この食生活はまた灼熱の地方に多いペリペリ病、日本では脚気と呼ばれる疾病の原因でもある。脚気の流行は、南西季節風が列島を一時的に南洋帯とする時期に限られ、ヒンドスタン地方ほど猛威は振るわないうが、それでも七人に一人以上の死亡率になる。天然痘も最も恐れられる疾病のひとつだ。昔から中国式の種痘「人痘法」ないし経鼻伝痘法が知られており、かつ今世紀初めにはシーボルトがワクチン接種を紹介したにもかかわらず、最近でも国民の三分の二はあはた面、十二月から一月にかけては、途切れることのない葬列がその猛威を見せつけた。日本人は極度に清潔だが、ハンセン病は国内各地にみられ、とくに東京湾沿岸に多い。結核の犠牲者はヨーロッパに劣らず多く、とりわけ肺結核が一般的だ。ヨーロッパの疾病のいくつかは日本では知られていない。丹毒は非常にまれだし、西洋から来日した家族も猩紅熱を持ち込んでいない。また日本の女性が産褥熱に罹った例もない「この文は不正確」。

のであって、人類学者が類縁の人類とみるマレー人やポリネシア人と同様だ。胸部は平均してヨーロッパ人よりもかなり負弱で、腹部は常にわずかに横腹が突き出ている。老化は非常に急速なことが観察されており、三〇歳ともなれば大抵は皺だらけで、眼の輝きと白い歯だけが若さの名残だ。熱い風呂に入浴する習慣が過剰なためかもしれない。
疾病
国内における疾病の筆頭は貧血症で、とくに男性に多い。言ってみれば、頼りにされるのは貧血に悩まない男なのであって、若年層を除けば八割以上が貧血気味とされる。主な原因とされるのは米飯に偏った食事で、タンパク質と脂が少なすぎると言われる。この食生活はまた灼熱の地方に多いペリペリ病、日本では脚気と呼ばれる疾病の原因でもある。脚気の流行は、南西季節風が列島を一時的に南洋帯とする時期に限られ、ヒンドスタン地方ほど猛威は振るわないうが、それでも七人に一人以上の死亡率になる。天然痘も最も恐れられる疾病のひとつだ。昔から中国式の種痘「人痘法」ないし経鼻伝痘法が知られており、かつ今世紀初めにはシーボルトがワクチン接種を紹介したにもかかわらず、最近でも国民の三分の二はあはた面、十二月から一月にかけては、途切れることのない葬列がその猛威を見せつけた。日本人は極度に清潔だが、ハンセン病は国内各地にみられ、とくに東京湾沿岸に多い。結核の犠牲者はヨーロッパに劣らず多く、とりわけ肺結核が一般的だ。ヨーロッパの疾病のいくつかは日本では知られていない。丹毒は非常にまれだし、西洋から来日した家族も猩紅熱を持ち込んでいない。また日本の女性が産褥熱に罹った例もない「この文は不正確」。



挿画 LXXIV 日本の婦人
一葉の写真をもとに、E. ロンジャ筆

思議な抵抗力をそなえる。何時間もぶつ通して重荷をかついで走り続け、肩を替える際でさえ立ち止まらないう。強力が山道を登るときも、息を整えたり鼓動を鎮めるため歩みを緩める必要はないのである。馬丁「別当」は主人が騎乗して平地でギヤロップさせても馬から離れず、騎兵士官が閱兵するさいには、従卒が付き添い、どんな馬の動きにも付いてゆく。日本の大道芸人の身の柔らかさと体力は西洋のそれに劣らない。一種の遺伝的特性により、モンゴル系の類型が驚異的な発達をとげる例は、力士以外にほとんど見られない。
* 職人や農民は、一般に均整のとれた肢体をそなえるが、膝がやや内向き「マミ」になっている。これは母親が嬰兒を背負うさい、子供の脚を外に出すせいで、母親自身もこの習慣のせいで、非常に早くから腰が曲がってしまう。貴族階級のあいだでは胸部が扁平なことが多く、結核症も主にこの人々のあいだで流行する

司部とその下の貴族階層「士族」だけが姓を有する特権をもち、日本人と同じく平民階層とされる庶民には上流階層の服装が許されず、銀のかんざしや日傘、厚底の履物は着用が禁じられている。
日本人の身体的特徴
起源は多様でも、日本人男性はほぼ全員が小柄で、身長一五〇―一五五センチであり、女性もそれに比例してさらに小さく、はなはだ繊細な手足である。庶民階層の男性の大半は頑健で、広い肩幅をもち、すこぶる器用で、疲労に対する不

* Gubbins, Proceedings of the [Royal] Geographical Society of London, Aug. 1881.
** Wernich, Geographisch-medizinische Studien.



挿画 LXXX 典型と衣服。日本の都市住民。複数の写真をもとに、A. シルイ筆
[F. ベアト写真集1] 147頁、図版193がもとではないかと思われる]

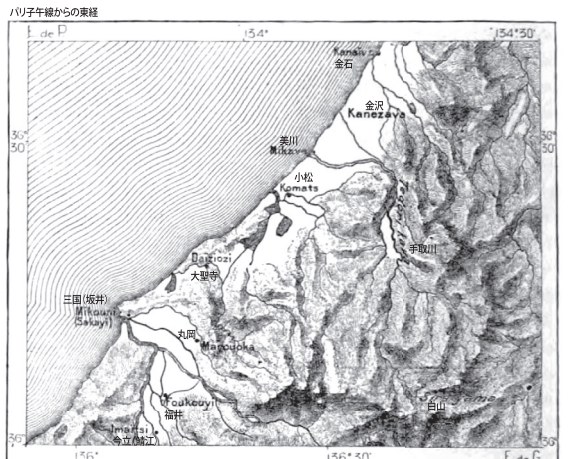


図150 金沢と白山

いわば金沢に付随する。高山ほかの内陸都市は、とくに農産物市場として重要である。高松の市邑は金沢と、南を白山の雪肌が見下ろす周囲の工業地帯の港である。南にある坂井の港は、大野、丸岡、福井ら近隣の都市の物産を積み出す。
水戸、高崎、前橋、富岡、草津、銚子、船橋
豊かな仙台北平野の南は岩がちな沿岸で、大きな街道筋「東山道」は西に迂回せねばならなかったため、数多な都市は皆無である。この沿岸で見られる最大の都市は水戸で、現在は湖干波湖池になつて古河の河口に、那珂川が堆積した沖積土のまん中に位置し、大理石産業があるが、現在は衰退している。住民は利根川とその支流が涵養する肥沃な平野部、すなわち東京の北西の各所に密集する。ここは